

マリンビジョン女性交流会議 かわら版

第12号 2019年1月発行



マリンビジョン21
MARINE VISION 21



マリンビジョン女性交流会議かわら版では、交流会議の活動内容、地域での活動内容、新しい情報などをお伝えします。皆さんで知恵を出し合って、活動の輪を広げていきましょう！

平成30年度 女性交流会議が開催されました！

開催概要

日時:平成30年12月10日(月) 14:00~17:00
場所:TKP 札幌駅カフアルソセンター カフアルソルームA

【出席者】

出席者は片石委員長をはじめ、7名の委員と、各地域のオブザーバー6名が出席しました。

【概要】

今回は、これまでの女性交流会議における意見とその対応方針について主催者側からの説明、情報提供として「海の宝！水産女子の元気プロジェクト」についての説明後、各委員による「女性が主体となった主な地域活動」の報告を行い、最近の地域活動における問題点や課題について意見交換が行われました。主な意見を、以下に一部抜粋してご紹介します。



◆委員名簿◆

	氏名	所属・役職
委員長	片石 温美	中央大学 研究開発機構 准教授(客員)
委員	白幡 奈美	遠別漁業協同組合 女性部長
委員	米森 みゆき	北るもい漁業協同組合苫前支所 女性部長
委員	逢坂 節子	積丹観光協会 事務局長
委員	阿部 尚子	福島吉岡漁業協同組合 福島地区 女性部長
委員	北川 洋子	室蘭漁業協同組合 女性部長
委員	大友 勇子	いぶり中央漁業協同組合虎杖浜地区 女性部長
委員	高野 恵里子	ひだか漁業協同組合 女性部長
委員	竹島 照子	大津漁業協同組合 女性部長
委員	堀 陽子	厚岸漁業協同組合 女性部長
委員	石垣 美紀子	落石漁業協同組合 女性部長
委員	櫻田 厚子	歯舞漁業協同組合 女性部長
委員	白濱 紀子	羅臼漁業協同組合 女性部長
委員	若林 育代	知床羅臼町観光協会 事務局長
委員	畠山 美佐	ウトロ漁業協同組合 女性部長
委員	柴田 厚子	常呂漁業協同組合 女性部長
委員	谷平 桂子	雄武漁業協同組合 女性部
委員	山下 成治	札幌大谷大学社会学部 地域社会学科 教授
委員	田中 郁也	北海道開発局農業水産部 水産課長
主催者	圓山 満久	北海道開発局農業水産部 部長

過年度会議での意見に対する回答・対応方針について

これまで開催された14回の会議において、委員より発言されたご意見について、対応方針が明らかになっていないものがありました。

このため、今回の会議では過去の議事録から委員の意見を抽出し、今後の活動が推進されるように対応方針を報告し、確認して頂きました。



漁村情報発信
from fishing village

URL:nagisa-portal.jp

- MV 料理レシピについて
⇒ 今年度一般の人の目に触れるような効果的なPR方法を検討する。
- 情報発信について
⇒ 漁村情報ポータルサイトの活用等、積極的に取り組む。
- 他地域との連携について
⇒ 他業種の連携など横の繋がりを深める取組を実施。
- 補助金活用の事例集
⇒ 地域活動に活用できる支援策について各地へ情報提供する。

他地域との連携や情報発信について

- 他地域と連携して情報交換したり、お互いに取り組んでいることを年に1回でも聞く機会を設けることが重要。
- マリンビジョン料理レシピの今後の在り方について今年度いろいろ検討を進めているが、情報発信をする場合、それを実施する人が必要で、意見が来たりレシピを改良したりフォローが必要。
- 開発局でマリンビジョンのHPは行政的な情報発信にとどまっている。一般の方に見やすいような形にすべき。
- 我々がインスタ映えするような料理を提供するのは難しい。また、その料理を飲食店で作るかといったら、なかなかできるものではない。地元にはいい食材がいっぱいあるが知られていない。
- イベントに出店する事はPRに繋がるが、場所代や人件費がかかり、利益が出ないことが多い。
- メディアに取り上げてもらうには、こちらからも発信しないと、注目してもらえない。
- 水産女子元気PJの今後の動きとしては、ロゴマークの作成、情報発信、民間とマッチングするといった意味で、マリンビジョンの取組と共通性がある。
- 水産女子元気PJは活動できる人が地域にいて、直接、漁業をやるわけではないが興味を持ってやってくれるようなことを期待していると思う。

情報発信として使えるものはいろいろある。労力・お金の掛からない方法を



山下委員



石垣委員

女性部のもっといろいろやりたい意欲を実現できるようにしないと...



北川委員



片石委員長



大友委員



米森委員

情報発信の目的や相手をよく吟味して対応を

横の繋がりを強化して新たな取組の展開を



田中委員



圓山農業水産部長

女性が主体となった主な地域活動について

今回参加して頂いた地域における活動状況や問題点等を発表して頂きました。

- イベントの出店は天気次第。
- 課題は、なかなか新部員が増えないことや活動時間の確保。
- 食育と宿泊研修を実施し、今年は202名が参加。地元の魚介類を知り、調理や実食を通し、魚食の推進と地域のPRをしている。
- 朝市、夕市というのは定期的に実施。5月から11月まで定置網漁で提供頂いた魚を調理して販売している。
- いつも港をきれいにしているということで今年感謝状を頂いた。
- 漁港から就航している観光クルーズ船は、自然保護区であるユリ島の周遊にネイチャークルーズとして外国人が結構多く参加している。また、外国人同士の情報発信もあるようだ。

その他、意見交換で挙げた意見

- 加工品の販売などについてもう少し女性部を応援してもらいたい。
- 周辺地域でクルーズ船が寄港した場合いろんな人たちが来る可能性もあるかもしれないのでその対応が必要。
- 地域活動の紹介では、ある地域が他地域のJAの女性部との連携を行っているが、漁期と農繁期のスケジュールが合わず実現していない地域もある。

今後の予定（次回に向けて）

過年度を含めこれまで本会議で発言された意見について効果的な対応方法を検討し、その結果をお伝えしたいと思います。次回は2019年度（秋）に開催予定ですので関係各位においては引き続きご協力をお願いいたします。

寿都町へ視察に行ってきました！

漁港施設（屋根付岸壁・蓄養施設）

日時:平成 30 年 12 月 11 日(火) 天候:雪

◆ **屋根付岸壁** ◆ 当日、雪の降るなか屋根の効果も実感しながら衛生管理型施設である屋根付き岸壁を見学しました。



現地視察の内容

【現地視察】

- ・ 寿都漁港（衛生管理型施設、蓄養施設）
- ・ 漁港周辺施設（道の駅みなとま〜れ、すつつ浜直市場）

【意見交換会】総合文化センターウイズコムにて

- ①『道の駅みなとま〜れ』について
一般社団法人 寿都観光物産協会 事務局長 渡部拓也氏
- ②『すつつ浜直市場・体験交流施設』について
寿都町漁業協同組合 専務理事 木村親志氏
木村都久子様
- ③寿都アンテナショップ神楽について
寿都町役場 産業振興課 商工観光係 係長 寺門賢将氏
- ④意見交換

◆ **蓄養施設** ◆ 冬期のため、蓄養されている魚種はカキ、アワビの稚貝でしたが、夏期にはカキ・ウニ・アワビ・ナマコ・餌料コンブ養成を行っています。ここで生産されたものは市場へ流通しています。（写真→）



漁港周辺の施設

『道の駅 みなとま〜れ』では、地場産商品の販売や地域情報の PR 方法などを見学しました。また、すつつ浜直市場では地元で生産された多くの水産加工品が販売されています。体験交流施設ではイベントののろしや設備を再現して説明して頂きました。



◆道の駅みなとま〜れ



◆すつつ浜直市場



◆体験交流施設



◆高校生達で賑わう体験交流施設（H30.10）

地元施設関係者との意見交換会

地元関係者の方と漁港施設や関連する周辺施設の見学後、各施設の関係者より、施設概要、利用状況や利用者の声（感想）、地元の鮮魚や水産加工品の販売、町の情報発信や展示等々、PR方法などをご報告頂いた後、意見交換を行いました。

◆ 『道の駅 みなとま〜れ』について ◆

- ・スタッフは寿都出身が1名、他は町外から仕事や結婚を機に寿都に来た方。
- ・過去にハイシーズンのみ雇用した方もいたが、現在は寿都居住の方を通年雇用。
- ・情報発信の方法はHP・SNS、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムの他、観光情報の雑誌等に掲載。年齢層によって見る媒体も違うので見せ方を変えている。
- ・雑誌への掲載は取材もあり、道の駅側からのアピールもあり。多くは取材によるもの。
- ・夏と冬の入り込み人数の差は平均で1/3~1/4程度。冬は地元の利用が多い。
- ・地元加工場の商品は道の駅、温泉施設、自社ショップで販売。



◆ 『すつつ浜直市場・体験交流施設』について ◆

- ・体験交流メニューに合わせたスタッフの数を用意（最大10名）。優先的に協力体制がある。利用時期としては春秋が中心。
- ・体験交流は民間会社が窓口となって運営。利用が飛躍的に伸び、ピークで年間4,000人の利用。今は民泊業の方にシフト。
- ・民泊の場合は直接漁家の方々と連絡取りながら対応し、現在の受入先は6、7軒。利用は最大で2泊3日。学生が主で外国人客の依頼もある。漁業体験のため天候に左右され、計画どおりにいかないことがある。
- ・漁業の仕事と両立している。民泊の受入れスタッフは地元の方も協力。民泊での食事は全て担当スタッフが賄っている。
- ・将来的には民泊施設を建て運営したい想いもある。
- ・漁業体験を経験した方が、これをきっかけに就業したと言う事は未だないが、観光客の増加を考えると体験の思い出とともにリピーターとなって利用されていると感じている。また、そう希望している。
- ・学校の総合的学習の受入では、町民の方と子供達との交流がある。
- ・修学旅行のスケジュールの中で、ニセコエリアで農業体験して寿都の方で漁業体験する内容である。また、多人数の場合、現状では受け入れが大変である。

◆ 『寿都アンテナショップ神楽』について ◆

- ・全国にも事例のない、過疎地と過疎地の連携による取組み。
- ・神楽自体は町の第3セクターである寿都振興公社が運営を担っている。スタッフはそこで採用。また、寿都町地域おこし協力隊が5名。寿都町とニセコ町の人の繋がりによりスタッフが集まっている。
- ・冬の利用のイメージが強いニセコであるが、神楽はニセコ町の行政区域で夏の観光客が多い所。10月、11月に利用が少々落ちるが春から夏にかけては、想定以上の入込みがあった。また、今回の地震の影響により利用の減少があった。
- ・レストラン施設の方は既存の物件を町で購入、国交省事業の空き家政策を使って改修した。
- ・寿都町の宿泊施設が慢性的に不足。ニセコから観光客を誘導して、また、体験交流も積極的に展開した場合、滞在、長期滞在できる空間がない。今年度事業で住宅を購入し、宿泊施設として整備しており、31年4月には供用開始する見込み。
- ・メニューは日本語と英語のみ。ここを利用するお客はほぼ英語できる方が多い。スタッフも英語の出来る者がいる。
- ・大正時代の漁場建築を寄付いただいて改修し、インバウンドの対応や地元の方の別荘としての利用も検討。



●寿都町のご関係の皆様、この度は資料や会議場設営等の準備ありがとうございました。おかげさまで有意義な現地視察となりました。改めて感謝申し上げます。

連絡先



マリナビジョン女性交流会議事務局

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 北海道開発局農業水産部水産課
TEL: 011-709-2311 (内線5599) 漁港漁村係まで
FAX: 011-709-5026
E-mail: suisan01@mlit.go.jp